

不二製油グループ本社（株） 決算補足資料

2020年度（2021年3月期）

- 第3四半期 -

ページ	項目
1	表紙
2	0-1 : 注記 / 為替情報
3	1-1 : 2020年度 連結決算実績 3Q(3ヶ月)
4	1-2 : 2020年度 連結決算実績 3Q累計
5	1-3 : 2020年度 連結業績（3Q累計 / 事業別・所在地別マトリクス）
6	2-1 : 主な指標
7	3-1 : 2020年度 連結業績予想（11月公表修正予想）
8	3-2 : 2020年度 連結業績予想（通期/事業別・所在地別マトリクス）

0-1 : 注記 / 為替情報

注記情報

・2019年度 決算期変更の実施

※ 当社グループは、マネジメントサイクルを統一することでグループ一体となった経営を推進するとともに、業績等の経営情報の適時・適切な開示により経営の透明性を更に高めることを目的として、2019年度より決算日を3月31日に変更又は連結決算日に仮決算を行う方法に変更しています。この決算期変更に伴い、2019年度は、当該海外グループ会社については2019年1月1日から2020年3月31日までの15ヵ月を連結し、連結損益計算書を通して調整しています。
(海外グループ会社のうち買収して間もないブラマー及び豪州IFSを除く)

- ・ 決算期変更会社 : 決算日を12月31日から3月31日に変更、または連結決算日に仮決算を行う方法に変更した海外グループ会社 (全27社)
- ・ ブラマー : Blommer Chocolate Company およびサブ連結対象会社 8 社
- ・ 豪州IFS : INDUSTRIAL FOOD SERVICES PTY LIMITED

【第3四半期比較】

2019年度に決算期を変更した海外グループ会社については、前年同期となる2019年度第3四半期の期間が2019年7月から2019年9月であることから、参考値として、前年同月 (3Q : 2019年10月-2019年12月・3Q累計 : 2019年4月-12月) の数値を記載、比較しています。

【通期比較】

2019年度は、海外グループ会社の決算期変更の為、15ヶ月の変則決算となっております。そのため、一部資料では当社で調整した数値を記載しております。2019年度(12ヶ月) は日本及び決算期変更会社の2019年4月-2020年3月の累計の数値となります。(ブラマー、豪州IFSを除く)

主な為替レート

・P/L : 期中平均レート、B/S : 期末レート

		2019年度	2019年度	2020年度	対前期末/対前年同期		2020年度
		3Q	期末	3Q	差	増減率	計画前提*
\$	P/L	109.15	109.03	106.11	▲ 3.04	▲ 2.8%	107.15
	B/S	107.92	108.83	103.50	▲ 5.33	▲ 4.9%	—
BRL	P/L	28.12	27.07	19.71	▲ 8.41	▲ 29.9%	19.93
	B/S	25.92	20.94	19.92	▲ 1.02	▲ 4.9%	—
€	P/L	122.66	121.68	122.38	▲ 0.28	▲ 0.2%	120.61
	B/S	118.02	119.55	126.95	7.40	+ 6.2%	—
元	P/L	15.90	15.75	15.44	▲ 0.46	▲ 2.9%	15.21
	B/S	15.13	15.31	15.88	0.57	+ 3.7%	—

・P/Lは前年同期(2019年度3Q)を、B/Sは前年度期末(2019年度末) を比較

・2020年度3Qブラマー為替レート(\$)は、P/L 107.13、BS 104.70

*計画前提P/Lレートは、11月修正予想に合わせ見直した値

1-1 : 2020年度 連結決算実績 3Q(3ヶ月)

(単位：億円)

	FY2019 3Q実績 *1 2019年7-9月	FY2019 前年同月*1 2019年10-12月	FY2020 3Q実績 *1 2020年10-12月	前年同期比 増減額*2	増減要因(対前年同期比較)
売上高					
植物性油脂	250	250	252	+2	外食向けの販売数量は減少も、販売単価の上昇により増収。
業務用チョコレート	449	472	470	▲2	ブラマー、中国では増収となったが、ブラジルリアル安により減収。
乳化・発酵素材	210	218	196	▲22	中国における製パン素材、日本におけるクリーム製品等の販売数量の増加はあったが、トーラクの譲渡を主因に減収。
大豆加工素材	90	89	88	▲1	大豆たん白食品、機能剤の販売数量の減少により減収。
合計	999	1,030	1,006	▲24	
営業利益					
植物性油脂	29	26	22	▲5	原材料価格の変動による収益性の悪化により減益。
業務用チョコレート	32	37	26	▲11	ブラマーの採算悪化や、ブラジルリアル安による収益性の低下により減益。
乳化・発酵素材	13	15	16	+1	中国での製パン素材、日本でのクリームの販売伸長が寄与し増益。
大豆加工素材	10	9	6	▲3	大豆たん白素材の販売が堅調に推移するも、機能剤や大豆たん白食品の販売数量の減少等により減益。
グループ管理費用	▲9	▲9	▲8	+1	
合計	75	77	62	▲16	
営業利益率	7.5%	7.5%	6.1%	▲1.4pt	
経常利益	68	-	60	-	
四半期純利益	58	-	43	-	投資有価証券売却益の減少

● 決算概要

植物性油脂事業、業務用チョコレート事業を中心に、新型コロナウイルスの影響による販売数量の減少により、減収減益となった。尚、3Q3ヶ月におけるブラマーのカカオの先物評価による営業利益の影響は▲2億円（前年同期は▲4億円）であった。下期における新型コロナウイルスの影響として、営業利益▲23億円を修正計画に織込んでおり、3Qにおいては概ね想定線で進捗。

● 特記事項

*1:前年度の海外グループ会社（ブラマー、豪州IFS除く）の決算期変更に伴い、決算期変更会社の「2019 3Q実績」は2019年7-9月、「2019 前年同月」は2019年10-12月、「2020 3Q実績」は2020年10-12月の数値。
*2:「前年同期比増減額」は、日本及び海外（ブラマー、豪州IFS除く）とも2019年10-12月と2020年10-12月の前年同月ベースの比較数値。
・上記業績は億円未満を四捨五入した数値を記載

1-2 : 2020年度 連結決算実績 3Q累計

(単位：億円)

	FY2019 3Q累計*1 2019年1-9月	FY2019 前年同月*1 2019年4-12月	FY2020 3Q累計*1 2020年4-12月	前年同期比 増減額*2	増減要因(対前年同期比較)
売上高					
植物性油脂	736	728	722	▲7	巣籠もり需要などにより一部数量の伸長があったものの、東南アジア、欧州におけるチョコレート用油脂の減少、外食向けの販売数量の減少により減収。
業務用チョコレート	1,293	1,303	1,221	▲82	日本、米州、東南アジア、欧州における土産、外食向けの販売数量の減少により減収。
乳化・発酵素材	617	616	528	▲88	日本におけるパン、土産向けのマーガリンの販売数量減少および、トーラクの譲渡により減収。
大豆加工素材	269	267	261	▲7	日本での原豆乳事業の譲渡、中国の大豆たん白食品子会社の譲渡により減収。
合計	2,915	2,915	2,731	▲184	
営業利益					
植物性油脂	73	74	56	▲18	原材料価格の変動による収益性の低下および、欧州でのチョコレート用油脂の販売数量の減少などにより減益。
業務用チョコレート	57	59	54	▲4	ブラマーのカカオの先物評価益（前期▲20億円、今期＋11億円）はあったが、減収要因に加え、為替要因（ブラジルレアル）を主とした採算悪化などにより減益。
乳化・発酵素材	32	35	25	▲10	日本、東南アジアでの減収により減益。
大豆加工素材	31	31	27	▲4	大豆たん白素材の販売が堅調に推移するも、機能剤や大豆たん白食品の販売数量の減少等により減益。
グループ管理費用	▲27	▲27	▲27	＋1	
合計	166	171	135	▲36	
営業利益率	5.7%	5.9%	5.0%	▲0.9pt	
経常利益	151	-	129	-	
四半期純利益	120	-	86	-	昨年度の堺工場売却益計上の剥落、減損損失計上（旧研究所建物撤去、旧会計システム帳簿価格減額等）、投資有価証券売却益の減少

●決算概要

業務用チョコレート事業でのブラマーのカカオ先物評価益の計上（前期▲20億円、今期＋11億円）はあったものの、新型コロナウイルスの影響により、土産向けや外食向けの油脂、チョコレート、マーガリンなどの販売数量が減少し、減収減益となった。

●特記事項

*1:前年度の海外グループ会社（ブラマー、豪州IFS除く）の決算期変更に伴い、決算期変更会社の「2019 3Q累計」は2019年1-9月、「2019 前年同月」は2019年4-12月、「2020 3Q累計」は2020年4-12月の数値。
*2:「前年同期比増減額」は、日本及び海外（ブラマー、豪州IFS除く）とも2019年4-12月と2020年4-12月の前年同月ベースの比較数値。
・上記業績は億円未満を四捨五入した数値を記載

1-3 : 2020年度 連結業績 (3Q累計/事業別・所在地別マトリクス)

(単位: 百万円)

売上高

	年度※	日本	米州	東南アジア	中国	欧州	連結計
		実績 前年同期比	実績 前年同期比	実績 前年同期比	実績 前年同期比	実績 前年同期比	実績 前年同期比
植物性油脂	FY2020 3Q	26,362 ▲232	22,227 +1,642	10,793 ▲1,253	2,093 +28	10,686 ▲848	72,163 ▲661
	2019 前年同期	26,594 -	20,585 -	12,046 -	2,065 -	11,534 -	72,824 -
	FY2019 3Q	26,594 -	20,718 -	12,742 -	1,935 -	11,604 -	73,594 -
業務用チョコレート	FY2020 3Q	26,558 ▲2,279	82,402 ▲6,081	6,886 ▲1,165	4,040 +1,753	2,206 ▲449	122,094 ▲8,220
	2019 前年同期	28,837 -	88,483 -	8,051 -	2,287 -	2,655 -	130,314 -
	FY2019 3Q	28,837 -	87,871 -	7,903 -	1,962 -	2,706 -	129,282 -
乳化・発酵素材	FY2020 3Q	37,224 ▲8,326	-	6,829 ▲404	8,781 ▲72	-	52,835 ▲8,800
	2019 前年同期	45,550 -	-	7,233 -	8,853 -	-	61,635 -
	FY2019 3Q	45,550 -	-	7,513 -	8,630 -	-	61,694 -
大豆加工素材	FY2020 3Q	24,787 ▲393	-	-	1,263 ▲289	-	26,050 ▲682
	2019 前年同期	25,180 -	-	-	1,552 -	-	26,732 -
	FY2019 3Q	25,180 -	-	-	1,748 -	-	26,928 -
売上高計	FY2020 3Q	114,932 ▲11,229	104,630 ▲4,438	24,508 ▲2,823	16,178 +1,422	12,893 ▲1,296	273,144 ▲18,361
	2019 前年同期	126,161 -	109,068 -	27,331 -	14,756 -	14,189 -	291,505 -
	FY2019 3Q	126,161 -	108,590 -	28,159 -	14,277 -	14,310 -	291,499 -

上記売上高は外部顧客への売上高。

営業利益

	年度※	日本	米州	東南アジア	中国	欧州	連結調整	グループ管理費用	連結計
		実績 前年同期比	実績 前年同期比	実績 前年同期比	実績 前年同期比	実績 前年同期比	実績 前年同期比	実績 前年同期比	実績 前年同期比
植物性油脂	FY2020 3Q	3,197 ▲317	1,180 ▲701	900 +74	142 ▲29	53 ▲822	111 +22	-	5,586 ▲1,771
	2019 前年同期	3,514 -	1,881 -	826 -	171 -	875 -	89 -	-	7,357 -
	FY2019 3Q	3,514 -	1,648 -	952 -	214 -	1,065 -	▲54 -	-	7,339 -
業務用チョコレート	FY2020 3Q	4,187 ▲1,052	892 +1,331	262 ▲385	▲160 ▲253	235 ▲95	28 +19	-	5,445 ▲435
	2019 前年同期	5,239 -	▲439 -	647 -	93 -	330 -	9 -	-	5,880 -
	FY2019 3Q	5,239 -	▲697 -	704 -	73 -	358 -	10 -	-	5,689 -
乳化・発酵素材	FY2020 3Q	1,272 ▲750	-	▲43 ▲380	1,101 +93	-	131 +2	-	2,461 ▲1,036
	2019 前年同期	2,022 -	-	337 -	1,008 -	-	129 -	-	3,497 -
	FY2019 3Q	2,022 -	-	381 -	787 -	-	42 -	-	3,233 -
大豆加工素材	FY2020 3Q	2,453 ▲183	-	-	323 ▲106	▲40 ▲27	▲50 ▲112	-	2,686 ▲428
	2019 前年同期	2,636 -	-	-	429 -	▲13 -	62 -	-	3,114 -
	FY2019 3Q	2,636 -	-	-	403 -	▲13 -	81 -	-	3,108 -
連結調整	FY2020 3Q	26 ▲83	6 +6	2 ▲36	14 ▲24	92 +179	▲143 ▲46	-	-
	2019 前年同期	109 -	▲0 -	38 -	38 -	▲87 -	▲97 -	-	-
	FY2019 3Q	109 -	11 -	▲7 -	20 -	▲20 -	▲113 -	-	-
グループ管理費用	FY2020 3Q	-	-	-	-	-	-	▲2,656 +85	▲2,656 +85
	2019 前年同期	-	-	-	-	-	-	▲2,741 -	▲2,741 -
	FY2019 3Q	-	-	-	-	-	-	▲2,730 -	▲2,730 -
営業利益計	FY2020 3Q	11,138 ▲2,383	2,079 +637	1,122 ▲725	1,422 ▲318	340 ▲764	76 ▲116	▲2,656 +85	13,522 ▲3,583
	2019 前年同期	13,521 -	1,442 -	1,847 -	1,740 -	1,104 -	192 -	▲2,741 -	17,105 -
	FY2019 3Q	13,521 -	962 -	2,031 -	1,500 -	1,389 -	▲34 -	▲2,730 -	16,640 -

※「2019 前年同期」は、「FY2020 3Q」の前年同月（2019年4－12月）の各社決算数値を参考値として記載。（ブラマー、豪州IFSを除く）

※「前年同期比」は「2019 前年同期」と「FY2020 3Q」の前期同月比での単純比較。

2-1:主な指標

大項目	項目	単位	備考	年度			2020(累計実績)				2020 修正予想	
				2017	2018	2019 15ヶ月決算	1Q	2Q	3Q	4Q		
PL項目	営業利益	億円		205	185	236	43	73	135		165	
	営業利益成長率	%		+4.0%	▲9.5%	-	+6.1%	▲19.6%	▲18.7%		-	
	EBITDA	億円		310	300	408	81	151	251		331	
	設備投資	億円	有形固定資産の設備投資	147	159	180	45	100	154	※1	230	※1
	減価償却	億円	有形固定資産の減価償却費	100	110	130	29	58	87		120	
	ROA	%	経常利益÷総資産 (期首と期末の平均値)	7.4%	5.5%	5.9%	4.2%	3.8%	4.7%		4.2%	
	ROE	%	売上高純利益率×総資産回転率 ×財務レバレッジ	8.8%	7.3%	10.5%	7.3%	5.6%	7.5%		6.4%	
	売上高純利益率	%	当期純利益÷売上高	4.5%	3.8%	3.9%	3.4%	2.5%	3.2%		-	
	総資産回転率	回	売上高÷総資産 (期首と期末の平均値)	1.14	0.77	1.13	0.92	0.95	1.00		-	
	財務レバレッジ	倍	総資産÷自己資本	1.7	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4		-	
ROIC	%	営業利益×(1-法人税率) ÷(期末株主資本+有利子負債)	6.7%	4.0%	5.1%	3.7%	3.2%	3.9%		-		
BS項目	総資産	億円		2,720	3,905	3,674	3,615	3,572	3,609		3,579	
	有利子負債	億円		566	1,605	1,462	1,502	1,458	1,433		1,399	
	NET有利子負債	億円		436	1,392	1,276	1,277	1,197	1,164		1,169	
	NET運転資本	億円		633	171	632	661	663	639		540	
	自己資本比率	%		59.2%	40.1%	42.3%	42.5%	42.5%	42.3%		44.1%	
	負債比率	%		66.1%	147.9%	134.7%	133.8%	133.5%	134.4%		-	
	のれん(広義)	億円	のれん(広義)とは、のれんに加え、商標権、 その他無形固定資産を含んだもの	196	605	527	504	490	480		-	
	のれん償却額	億円		7	7	24	5	10	16		-	
	のれん(広義)純資産比率	%		12%	38%	33%	32%	32%	31%		-	
	D/Eレシオ	倍	有利子負債÷自己資本	0.4	1.0	0.9	1.0	1.0	0.9		0.9	
Net D/Eレシオ	倍	Net有利子負債 (有利子負債-現預金) ÷株主資本	0.3	0.9	0.7	0.7	0.7	0.7		0.7		
CF項目	営業キャッシュフロー	億円		282	226	371	70	174	265		340	
	投資キャッシュフロー	億円		▲145	▲791	▲183	▲48	▲70	▲109		▲171	
	フリーキャッシュフロー	億円		137	▲565	188	22	104	156		168	
	財務キャッシュフロー	億円		▲135	655	▲207	14	▲31	▲76		-	
	CCC	日	2018年度のCCCはブラマーを除く。 2019年度は15ヶ月決算を12ヶ月に換算し算出	103	105	113	128	118	110		104	

※FY2020.1Q、FY2020.2Q、FY2020.3QのROA、ROE、ROICについては、年間換算した参考値

※1 主な設備投資

年度	主な投資項目	億円
2020	米州 油脂 新拠点設立	29
3Q累計	米州 ブラマー設備投資	14
	欧州 水溶性えんどう多糖類の新工場設立	20
	日本 粒状たん白 千葉新工場	12
	計	154
2020	米州 油脂 新拠点設立	36
計画	米州 ブラマー設備投資	34
	計	230

株主還元

株主還元方針

- ・配当性向30-40%
- ・安定かつ継続的な配当の実施

1株当たりの配当金の推移 (単位：円)

年度	中間配当	期末配当	合計	配当性向
2012	12	13	25	25.8%
2013	13	13	26	27.4%
2014	13	17	30	27.6%
2015	17	18	35	32.6%
2016	22	22	44	31.2%
2017	23	25	48	30.0%
2018	25	25	50	37.1%
2019	27	29	56	29.4%
2020 修正予想	26	26	52	44.8%

3-1： 2020年度 連結業績予想（11月公表 修正予想）

（単位：億円）

		通期						備考
		2019	2019	2020	2020	増減額	増減額	
		15ヶ月	12ヶ月*1	期初予想	修正予想	期初VS修正	前年12ヶ月VS修正	
売上高	植物性油脂	1,141	979	921	945	+24	▲34	前期及び今上期に見られた巣籠もり需要の剥落および、下期でのチョコレート用油脂の販売数量の減少などを見込み減収。
	業務用チョコレート	1,801	1,717	1,670	1,625	▲45	▲92	日本での土産向け等の販売数量減少、ハラルドでの販売減少及び為替の影響などにより減収計画。
	乳化・発酵素材	852	793	789	685	▲104	▲108	新型コロナウイルスの影響による販売数量減少は下期にも続くと見込み減収計画。
	大豆加工素材	354	347	320	345	+25	▲2	大豆たん白素材の販売伸長を見込むも減収計画。
	合計	4,147	3,837	3,700	3,600	▲100	▲237	
営業利益	植物性油脂	112	101	84	73	▲12	▲28	チョコレート用油脂の販売数量の減少に加え、原材料価格の変動による収益性の低下を勘案し減益計画。
	業務用チョコレート	83	75	85	71	▲13	▲4	ブラマーのカカオ先物評価益の計上（前期▲20億円の実績、今期+11億円の計画）はあるものの、減収による減益を計画。
	乳化・発酵素材	41	38	34	27	▲7	▲11	減収による減益を計画するものの、下期比では、中国などの改善を見込む。
	大豆加工素材	40	39	35	34	▲1	▲5	大豆たん白素材の堅調は見込むものの、機能剤の販売不振を見込み減益計画。
	グループ管理費用	▲40	▲39	▲45	▲40	+5	▲1	
	合計	236	215	193	165	▲28	▲50	
営業利益率		5.7%	5.6%	5.2%	4.6%	▲0.6pt	▲1.0pt	
経常利益		224	203	178	153	▲25	▲50	
親会社株主に帰属する当期純利益		164	147	115	100	▲15	▲47	

● 決算概要

【修正予想】

期初予想は、新型コロナウイルスの感染拡大が6月に収束し、下期には影響は軽微とするという前提に基づき、下期への影響を織込まずに策定。

修正予想は、足元の状況を鑑み、下期にも新型コロナウイルスの影響による販売数量の減少が継続することを織込んだことにより、営業利益を193億円から165億円に下方修正。

● 特記事項

*1 2019年度は海外グループ会社（ブラマー、豪州IFSを除く）の決算期変更に伴い15ヶ月決算。12ヶ月数値は決算期変更を行った会社の2019年4月-2020年3月の参考値。

・上記業績は億円未満を四捨五入した数値を記載

3-2： 2020年度 連結業績予想（通期/事業別・所在地別マトリクス）（11月公表修正予想）

(単位：百万円)

売上高	年度 ※	日本	前期比	米州	前期比	東南アジア	前期比	中国	前期比	欧州	前期比	連結計	前期比
植物性油脂	2020修正予想	33,822	▲1,608	29,591	+1,391	15,050	▲1,263	2,525	+1	13,512	▲1,905	94,500	▲3,386
	2020期初予想	34,300	▲1,130	25,000	▲3,200	17,600	+1,287	2,100	▲424	13,100	▲2,317	92,100	▲5,786
	2019(4-3月 12ヶ月)	35,430	-	28,200	-	16,313	-	2,524	-	15,417	-	97,886	-
業務用チョコレート	2020修正予想	33,656	▲4,533	111,009	▲5,658	9,744	▲849	5,003	+2,212	3,088	▲391	162,500	▲9,223
	2020期初予想	33,000	▲5,189	114,000	▲2,667	10,000	▲593	6,600	+3,809	3,400	▲79	167,000	▲4,723
	2019(4-3月 12ヶ月)	38,189	-	116,667	-	10,593	-	2,791	-	3,479	-	171,723	-
乳化・発酵素材	2020修正予想	48,390	▲10,447	-	-	9,206	▲560	10,904	+169	-	-	68,500	▲10,839
	2020期初予想	55,400	▲3,437	-	-	8,900	▲866	14,600	+3,865	-	-	78,900	▲439
	2019(4-3月 12ヶ月)	58,837	-	-	-	9,766	-	10,735	-	-	-	79,339	-
大豆加工素材	2020修正予想	32,732	+11	-	-	-	-	1,768	▲233	-	-	34,500	▲222
	2020期初予想	29,900	▲2,821	-	-	-	-	2,100	+99	-	-	32,000	▲2,722
	2019(4-3月 12ヶ月)	32,721	-	-	-	-	-	2,001	-	-	-	34,722	-
売上高計	2020修正予想	148,600	▲16,579	140,600	▲4,267	34,000	▲2,673	20,200	+2,148	16,600	▲2,297	360,000	▲23,672
	2020期初予想	152,600	▲12,579	139,000	▲5,867	36,500	▲173	25,400	+7,348	16,500	▲2,397	370,000	▲13,672
	2019(4-3月 12ヶ月)	165,179	-	144,867	-	36,673	-	18,052	-	18,897	-	383,672	-

上記売上高は外部顧客への売上高。

2019年度1Qより、欧州を「植物性油脂」と「業務用チョコレート」に分けて表示（従来は「植物性油脂」に含む）。

営業利益	年度 ※	日本	前期比	米州	前期比	東南アジア	前期比	中国	前期比	欧州	前期比	連結調整	前期比	グループ管理費用	前期比	連結計	前期比
植物性油脂	2020修正予想	4,170	▲456	1,738	▲993	1,034	▲290	143	▲13	199	▲997	2	▲86	-	-	7,286	▲2,838
	2020期初予想	3,940	▲686	1,676	▲1,055	1,560	+235	125	▲31	1,096	▲100	45	▲43	-	-	8,442	▲1,682
	2019(4-3月 12ヶ月)	4,626	-	2,731	-	1,325	-	156	-	1,196	-	88	-	-	-	10,124	-
業務用チョコレート	2020修正予想	5,124	▲1,850	1,662	+2,437	570	▲295	▲478	▲544	219	▲146	38	▲10	-	-	7,135	▲412
	2020期初予想	5,880	▲1,094	1,663	+2,438	880	+15	▲156	▲222	167	▲198	31	▲18	-	-	8,465	+918
	2019(4-3月 12ヶ月)	6,974	-	▲775	-	865	-	66	-	365	-	49	-	-	-	7,547	-
乳化・発酵素材	2020修正予想	1,366	▲955	-	-	49	▲204	1,168	+113	-	-	93	▲74	-	-	2,676	▲1,119
	2020期初予想	1,960	▲361	-	-	144	▲108	1,231	+176	-	-	36	▲131	-	-	3,371	▲424
	2019(4-3月 12ヶ月)	2,321	-	-	-	252	-	1,055	-	-	-	167	-	-	-	3,795	-
大豆加工素材	2020修正予想	3,052	▲98	-	-	-	-	501	▲26	▲144	▲121	6	▲270	-	-	3,415	▲517
	2020期初予想	2,898	▲253	-	-	-	-	719	+192	▲178	▲155	69	▲207	-	-	3,508	▲424
	2019(4-3月 12ヶ月)	3,151	-	-	-	-	-	527	-	▲23	-	276	-	-	-	3,932	-
連結調整	2020修正予想	143	▲201	5	+5	▲3	▲41	▲5	▲43	94	+181	▲234	+99	-	-	-	-
	2020期初予想	181	▲163	-	+0	-	▲38	-	▲38	0	+87	▲181	+152	-	-	-	-
	2019(4-3月 12ヶ月)	344	-	▲0	-	38	-	38	-	▲87	-	▲333	-	-	-	-	-
グループ管理費用	2020修正予想	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,012	▲72	▲4,012	▲72
	2020期初予想	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,486	▲546	▲4,486	▲546
	2019(4-3月 12ヶ月)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,940	-	▲3,940	-
営業利益計	2020修正予想	13,855	▲3,563	3,407	+1,452	1,650	▲831	1,329	▲513	368	▲1,083	▲95	▲344	▲4,012	▲72	16,500	▲4,959
	2020期初予想	14,859	▲2,559	3,339	+1,384	2,584	+103	1,919	+77	1,085	▲366	0	▲249	▲4,486	▲546	19,300	▲2,159
	2019(4-3月 12ヶ月)	17,418	-	1,955	-	2,481	-	1,842	-	1,451	-	249	-	▲3,940	-	21,459	-

2019年度1Qより、欧州を「植物性油脂」と「業務用チョコレート」に分けて表示（従来は「植物性油脂」に含む）。

※2019（4-3月 12ヶ月）は日本と海外グループ会社（ブラマー、豪州IFSを除く）の決算期を2019年4月-2020年3月に統一した12ヶ月数値。比較は単純比較。

不二製油グループ本社（株） IR参考資料

2020年度（2021年3月期）

- 第3四半期 -

<u>ページ</u>	<u>項目</u>
1	表紙
2	FY2020 3Q Pickup：新型コロナウイルスの影響について
3	IR補足①：主要製品群の販売数量推移（前年同期比）
4	IR補足②：主要原料チャート（2020年12月末まで）
5	IR補足③：中期経営計画 / 主なトピックス

FY2020 3Q Pickup : 新型コロナウイルスの影響について

期初計画前提(20年5月時点)

6月末に感染拡大が収束するという前提に基づき、1Qは各エリアで収益が低下するも、2Qより徐々に需要は回復、下期には影響を織込まず策定。

修正計画前提(20年11月)

足元の状況を鑑み、各エリア、市場毎に影響が継続するという前提条件で計画を修正。

エリア	上期状況	下期影響見通し	3Q動向/4Q見通し
日本	業務用チョコレート ・土産向け数量は大幅に減少も回復傾向。 (数量前年同期比:1Q ▲約70%、2Q ▲約50%) ・アイスや菓子は堅調。	業務用チョコレート ・土産向け数量は前年比▲50%程度で推移すると想定。 ・前期4Qの巣籠り特需は剥落。	業務用チョコレート ・3Qは土産向け数量は想定を上回ったが、4Qは見通し並みに推移する見通し。
	乳化・発酵素材 ・外食(カフェ)、土産向けの需要減少により数量減少。 ・2Qは各市場で回復傾向。	乳化・発酵素材 ・外食(カフェ)向けは前年比▲20%、土産向けは前年比▲50%の数量推移を想定。	乳化・発酵素材 ・3Qは土産向け数量は想定を上回ったが、外食向けは想定並み。一方、デザートやケーキ需要は3Qも好調に推移し、4Qも継続する見込み。
	大豆加工素材 ・健康志向が高まり、大豆たん白素材(粉末状・粒状大豆たん白)が堅調。 ・外出機会の減少による飲料の販売減少により、機能剤は減少。	大豆加工素材 ・大豆たん白素材は、新工場稼働により堅調な販売を見込む。 ・飲料需要の緩やかな回復を想定。	大豆加工素材 ・3Qは大豆たん白素材は堅調に推移し、4Qも継続見込み。一方、飲料需要の低迷により、機能剤の水溶性大豆多糖類の販売数量の回復ペースは見通しを下回る。
米国	植物性油脂 ・小売向け製品は安定も、外食向けの需要減少。	植物性油脂 ・小売向け製品は安定も、外食向けは低調が続く見込み。	植物性油脂 ・小売向け製品は安定も、外食向けは低調に推移。
	業務用チョコレート(上期 2-7月) ・1Q(2-4月)は巣籠り需要が見られたが、2Q(5-7月)販売数量減少。	業務用チョコレート(下期 8-1月) ・催事向けの進展は弱い、販売数量は前年並みまでの回復を見込む。	業務用チョコレート(3Q:8-10月、4Q:11-1月) ・3Qは催事向け需要は例年を下回るも、販売数量は前年並みを確保。しかし、コロナウイルスの影響は継続し、4Qは見通しを下回る販売数量。
ブラジル	業務用チョコレート ・1Qは外食向け等、主要顧客の閉鎖により大幅な数量減少。 ・2Qは経済活動の再開により数量急回復、7月以降は前年を上回る数量推移。	業務用チョコレート ・レアル安の進行による採算悪化を織込むも、例年並みの販売数量を想定。	業務用チョコレート ・レアル安の影響はあるも、3Qに続き4Qも例年並みの数量を見込む。
東南アジア	業務用チョコレート/乳化・発酵素材 ・外出規制によりアイス、パン、デザート向け需要減少。	業務用チョコレート/乳化・発酵素材 ・回復鈍く新興国を中心に需要弱い。販促進める。	業務用チョコレート/乳化・発酵素材 ・ホームユース需要の高まりはあるが、新興国での需要の弱さは継続。回復ペースは遅いが、4Qは計画並みを見込む。
中国	乳化・発酵素材 ・1Qはパン市場の需要減少により、製パン素材の販売減少。 ・2Qは市場の回復に加え、国慶節の国内需要が増加。	乳化・発酵素材 ・景況感は改善傾向。拡販進める。	乳化・発酵素材 ・景況感の改善傾向が続く。コロナを契機に消費者の安全安心へのニーズが高まり、ブランド価値のある差別化製品が堅調に推移。
欧州	植物性油脂/業務用チョコレート ・土産、外食向けの数量減少。 ・2Qは回復傾向も前年を下回り推移。	植物性油脂/業務用チョコレート ・感染再拡大、土産、外食向けの販売数量は前年を下回ると想定。	植物性油脂/業務用チョコレート ・見通し並みに推移。

IR補足①：主要製品群の販売数量推移（前年同期比）

セグメント	エリア	製品群	2017	2018年度 実績							2019年度 実績							2020年度 実績(*5)							2020年度 3Q ポイント		
				1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	Total	1Q	2Q	上期	3Q	4Q 海外 10-12 月	4Q 海外 1-3月	下期 (*3)	Total (*4) 15ヶ月 同月比	1Q	2Q	上期	3Q	3Q 累計	4Q		下期	Total
植物性 油脂	日本	チョコレート用油脂	99%	96%	98%	97%	96%	96%	96%	97%	97%	107%	102%	108%	108%	-	108%	105%	111%	98%	104%	98%	101%				巣ごもり需要の伸びは一服。需要は安定し 前年並みで推移。
	米州		85%	104%	103%	104%	109%	93%	101%	102%	98%	103%	100%	107%	107%	110%	108%	105%	99%	84%	91%	86%	90%				家庭向けチョコレート需要は安定も、 外食向けは減少。
	東南アジア		110%	114%	103%	109%	80%	101%	90%	98%	103%	96%	100%	96%	80%	95%	90%	94%	78%	78%	78%	96%	84%				外食や土産向け販売数量が減少。
	中国		114%	83%	103%	90%	96%	87%	91%	91%	73%	97%	83%	65%	83%	52%	68%	74%	98%	81%	89%	93%	90%				販売数量減少も、計画並みに進捗。
	欧州		102%	92%	105%	98%	90%	90%	90%	93%	84%	83%	84%	78%	103%	93%	91%	88%	69%	86%	78%	80%	79%				土産菓子需要が減少。
	合計		100%	107%	105%	106%	93%	98%	96%	100%	96%	97%	97%	96%	94%	97%	96%	96%	88%	84%	86%	91%	87%				
業務用 チョコレート	日本	チョコレート （カカオ製品含む）	102%	102%	91%	96%	99%	90%	95%	96%	93%	103%	98%	100%	102%	-	101%	100%	94%	94%	94%	95%	95%				土産向け販売数量が減少。
	米州(ブラジル)		89%	93%	92%	92%	102%	117%	110%	101%	82%	131%	96%	105%	128%	105%	113%	106%	47%	114%	84%	100%	91%				外食、製菓専門店向け販売が堅調に推移。
	東南アジア		124%	104%	98%	101%	101%	107%	104%	103%	119%	127%	123%	106%	101%	98%	102%	110%	82%	92%	87%	95%	90%				外出規制の影響を受け、パンやアイス向けが減少。 豪州は堅調。
	中国		92%	141%	114%	127%	114%	121%	118%	122%	99%	104%	101%	106%	121%	82%	105%	103%	146%	195%	173%	163%	169%				ブラマー中国事業が加わったことに加え、 菓子向けが堅調に推移。
	欧州		105%	122%	131%	127%	120%	119%	120%	123%	123%	106%	114%	114%	95%	97%	102%	106%	77%	81%	79%	89%	82%				土産菓子需要が減少。
	合計(*1)	101%	100%	96%	98%	105%	110%	107%	103%	95%	115%	104%	104%	111%	101%	106%	105%	79%	103%	92%	100%	95%					
	ブラマー(*2)	チョコレート （カカオ製品含む）	-	-	-	-	-	-	-	-	107%	98%	102%	93%	91%	-	92%	97%	100%	83%	90%	99%	93%				（8-10月）催事需要は減少したが、 家庭向けチョコレート需要は堅調に推移。
乳化・発酵 素材	日本	クリーム	104%	104%	101%	102%	94%	99%	96%	99%	107%	104%	105%	97%	96%	-	97%	101%	87%	97%	92%	102%	96%				カフェ向け採用品増加や、デザート市場の堅調な 推移により増加。
		マーガリン ショートニング	98%	96%	98%	97%	96%	92%	94%	96%	84%	85%	85%	82%	86%	-	84%	84%	82%	88%	85%	96%	88%				土産、パン向けの販売が減少。
	東南アジア	クリーム	120%	125%	100%	111%	103%	114%	109%	110%	116%	116%	116%	130%	105%	85%	104%	110%	69%	109%	89%	99%	93%				インドのクリーム製造会社の譲渡による減少要因はあった が、専門店向け販売が伸長し前年並みで着地。
	中国	マーガリン ショートニング	110%	95%	99%	97%	92%	122%	106%	103%	94%	88%	91%	83%	86%	77%	82%	86%	93%	107%	100%	105%	102%				積極拡販により増加。
		フィリング	160%	161%	132%	145%	139%	141%	140%	142%	115%	114%	114%	98%	98%	72%	90%	99%	94%	112%	103%	104%	103%				積極拡販により増加。
大豆加工 素材	日本	大豆たん白素材	103%	104%	104%	104%	105%	102%	104%	104%	101%	104%	103%	102%	109%	-	106%	104%	108%	108%	108%	106%	107%				健康栄養市場やシリアル向けが堅調に推移。
		大豆たん白食品	89%	83%	84%	83%	103%	105%	104%	93%	108%	102%	105%	98%	98%	-	98%	101%	93%	104%	99%	96%	98%				宅配需要は堅調も、外食や産業給食向けの減少。
		機能剤	103%	96%	107%	102%	91%	107%	99%	101%	96%	90%	93%	110%	83%	-	95%	94%	103%	88%	95%	89%	94%				飲料向けが減少。

注）製品区分定義の見直し等により、過年度の実数に変更がある場合は遡及修正後数値を表示（植物性油脂事業の「チョコレート用油脂」の東南アジアは、製品群の見直しにより遡及修正を実施。また、合計も遡及修正済み）

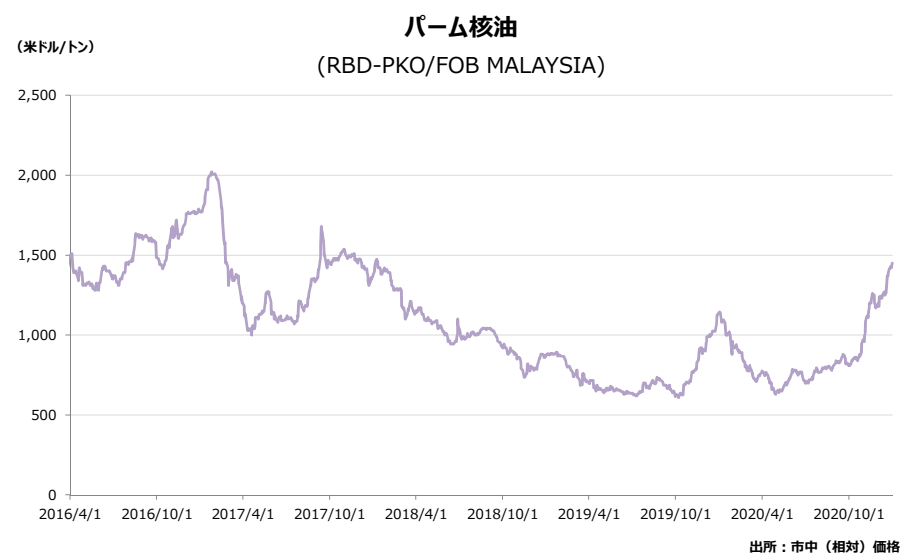
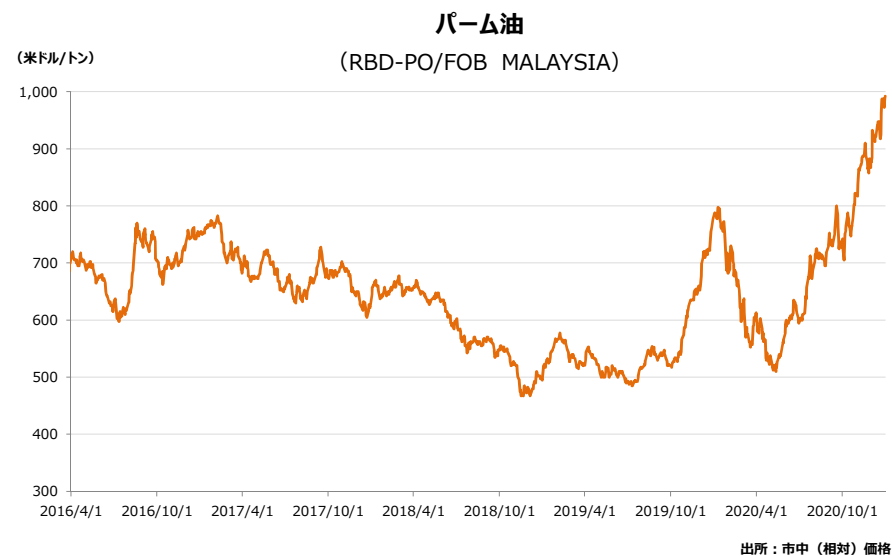
*1:ブラマーの数量は除いて算出 *2：ブラマーのP/L連結は2019年1Qから開始、参考値として連結前の同月期の販売数量実績対比の指数を掲載

*3:19年度下期（海外7-3月）については、日本等の3月決算の会社は10-3月を、12月から3月に決算期を変更した海外グループ会社は7-3月の前年同期間を比較。

*4:2019年度については、従来より3月決算の会社の12ヶ月間の数量と、決算期を12月から3月に変更した海外グループ会社の15ヶ月間の数量の合計を、前年同月比で比較。

*5:2020年度については、2019年度に決算期を12月から3月に変更した海外グループ会社については、前年同月で比較。

IR補足②：主要原料チャート（2020年12月末まで）



IR補足③：中期経営計画 / 主なトピックス

●中期経営計画

基本戦略	基本方針	※基準年						中計策定時 20年度目標
		16年度 実績	17年度 実績	18年度 実績	19年度 実績*1	20年度 修正予想 (4か年の累計予想)		
	①コアコンピタンスの強化 ・強みを発揮できる市場・製品群を確実に伸ばす	ROE	8.3%	8.8%	7.3%	10.5%	6.4%	10.0%
		売上高純利益率	4.1%	4.5%	3.8%	3.9%	—	約5%
	②大豆事業の成長 ・地球と人の健康を追求 ・時代に合った製品の提供	総資産回転率	107.5%	113.6%	77.0%	112.9%	—	約115%
		財務レバレッジ(倍)	1.8	1.7	2.5	2.4	—	約1.8倍
	③機能性高付加価値事業の成長 ・多糖類事業、安定化DHA・EPAの事業展開 ・栄養・健康分野への進出 ・グループ収益の安定化を図る	EPS(円)	140.8	159.9	134.7	190.5	116.3	EPS CAGR 8%以上
		EPS成長率	31.2%	13.5%	▲15.7%	—	—	
	④コストダウンとグローバルスタンダードへの統一	営業利益(億円)	197	205	185	236	165	営業利益 CAGR 6%以上
		営業利益成長率	16.9%	4.0%	▲9.5%	—	—	
		株主還元（配当性向）	31.2%	30.0%	37.1%	29.4%	44.8%	配当性向 30-40%
		営業キャッシュフロー(億円)	165	282	226	371	340	4か年累計 1,000億円
		CCC(日)	110	103	105*2	113*3	104	CCC 10日間の短縮
		売上債権(日)	74	76	—	62	60	
		棚卸資産(日)	65	57	—	75	71	
		仕入債務(日)	29	30	—	25	27	
		設備投資(億円)	136	147	159	180	230	4か年累計 600-700億円
		M&A	—	—	ブラマー・IFS	—	—	500億円の資金確保

*1：19年度実績は海外グループ会社（ブラマー、豪州IFSを除く）の決算期変更（12月→3月）に伴う15ヶ月決算数値を反映。
*2：18年度のCCCはブラマーを除く
*3：19年度のCCCは、15ヶ月決算適用海外グループ会社を12ヶ月換算し算出

●2020年度 主なトピックス（日付はHPリリース公開日）

日付	Topics	日付	Topics
2020.5.7	温室効果ガス削減目標に関して「SBT イニシアチブ」の認証を取得	2020.9.11	UPGRADE Plant based kitchenあふの環サステナウィーク参画
2020.5.12	連結子会社の異動（トーラク株式会社の発行済株式の全てを譲渡）	2020.9.17	「統合報告書2020」を発行
2020.5.19	役員に対する業績連動型株式報酬制度を導入	2020.9.30	『Food Tech Studio - Bites!』参画に関するお知らせ
2020.6.4	児童労働撲滅、森林破壊防止に向け、サステナブル調達コミットメントを策定	2020.10.1	継続的なDHA 297 mgの摂取が加齢に伴う認知機能の低下を抑制することを確認
2020.6.18	第92回定時株主総会	2020.10.9	創立70周年
2020.6.23	「第5回 日本ベジタリアンアワード」で大賞を受賞	2020.11.16	UPGRADE Plant based kitchen 期間限定で東京初上陸
2020.6.30	責任あるパーム油調達に関する取組み状況を公表	2020.11.19	日本 I R 協議会 I R 優良企業特別賞 受賞
2020.7.3	「サステナビリティレポート2020」を公開	2020.12.8	CDPより森林、気候変動、水セキュリティについて「トリプルA」評価を獲得
2020.8.20	非連結子会社（3F FUJI FOODS PRIVATE LIMITED）の異動（持分譲渡）	2020.12.18	『消費者志向経営優良事例 消費者庁長官表彰（特別枠）』受賞
2020.9.9	ジャパンタイムズ Satoyama & ESG アワード2020のESGの部において大賞を受賞	2021.1.22	代表取締役の異動（社長交代）に関するお知らせ